

## 仕事は人生の一部、三兎を追え！

いの うえ けい いち  
井 上 桂 一\*

### 1. はじめに

埼玉県庁での38年間の生活を振り返ると、道路を振り出しに都市計画、土地区画整理、再開発、公園、河川、下水道、水道、産業団地、企画、入札・契約など砂防を除くほとんどの分野を経験した。現場では竜巻被害にも遭遇した。

前半の現場やプロジェクト、企画部門での経験をもとに後半の管理職になってからまとめた「仕事の10カ条」、また働き方改革が進む中、今後どう生きるかのヒントとなるメッセージを送りたい。

### 2. 仕事から学んだこと（10カ条）

#### 1) 仕事の進め方

- ①重要度と緊急度のマトリックスで優先順位を
- ②期限に照らして精度を決める。
- ③最適解を求める（満点は求めない）。
- ④自己研鑽に努める

私は、昭和54年、土木部道路維持課（現県土整備部道路環境課）に入庁以降、11年間道路事業に係わった。そのうち現場での8年間で多くの道路や橋梁の新設に係わり、いずれも県内3例目である電線地中化事業や斜張橋を担当した。これらの事業では積算基準もなく、他の事務所や他の機関の基準を参考に設計・積算を行った。専門書も購入し自己研鑽に努めるとともに、他の機関の現場を見学した。この8年間で多くの経験を積み、先輩方の熱いOJTを受け、仕事をこなすうちに精度を上げ、効率的・効果的に仕事を行えるようになった。



写真-1 しらこぼと橋（越谷市）

#### 2) 失敗から

- ⑤同じ失敗を繰り返さない。
- ⑥失敗を糧として改善していく。
- ⑦当事者意識を持つ。

現場では失敗もあった。初めての現場では先行して埋設されていた電話ケーブルを切断する事故に遭遇した。占有者の施工ミスだったのであるが、監督員の個人的な責任問題もあり精神的にきつい時期もあった。失敗は周囲の状況から避けられないケースもある。いくつかの要素が偶然重なって起きている場合がほとんどである。しかし、原因を探り防止策を考えることが重要である。いい経験をしたと割り切り今後の糧とすることである。また周囲で起こったミスでも自分のことと捉え未然防止策などを考えることが危機管理能力向上のために役立つ。

#### 3) プロジェクト業務から

##### ア) 常磐新線（現TX）沿線地域整備事業

#### ⑧プロジェクト思考で仕事を進める

その後、県のビッグ・プロジェクト2件に係った。

\*元埼玉県 企業局長（越谷県土整備事務所長、公園スタジアム課長等を歴任）

まず常磐新線沿線地域整備事業である。県と住宅・都市整備公団（現UR都市機構）、八潮市、三郷市の四者で鉄道整備と一体となったまちづくりを行う事業であった。目標年次が決まっており、それぞれの立場や意識、役割も輻輳する中で、各々の信頼関係を築き、法的手続き期間や周知方法の締切などをクリティカルとする日単位のスケジュール管理を行い国や地元との調整を終えて、他都県に先駆けて都市計画決定・事業化につなげた。



写真-2 八潮駅周辺（八潮市）

#### イ) 浦和東部・岩槻南部地域整備事業

##### ⑧プロジェクト思考で仕事を進める

##### ⑨戦略を練る

次も停滞していたプロジェクトに係わった。鉄道開業とサッカーワールドカップ日韓大会開催時を目標年次とし、鉄道事業とスタジアム建設、県河川事業、県道路事業と調整を図り、住宅・都市整備公団（現UR都市機構）、浦和市、岩槻市（両市とも現さいたま市）とともに土地区画整理事業を進める複合事業であった。このプロジェクトは首都圏でも最大規模だったため関係省庁との調整が難航していた。開発面積の必要性の根拠となる資料が作れなかったことが原因であった。そこで鉄道の採算性確保のための利用者数を根拠とする資料を作成した。

また、遅れを取り戻すために調整の実績作りは年数ではなく回数で対応しようと戦略を立てた。1年間で50回以上足を運び、何とか調整を終え都市計画決定・事業化につなげた。



写真-3 埼玉スタジアム 2002（さいたま市）

#### 4) 企画業務から

##### ⑧プロジェクト思考で仕事を進める

##### ⑩ビジネススキルを身に着ける

2つのプロジェクトの後、都市計画の県の方針をつくる「都市づくり指針策定業務」に係わった。

毎年テーマを設定し学識経験者からなる懇話会を設置し議論を重ね年度末に知事に提言書を手渡していた。過去4年間の提言書をまとめ「指針」を年度内に策定する業務であった。

検討を進める中で、提言書のテーマを整理すると重要なテーマが欠けていた（漏れの発見）。このため国の審議会資料や専門書を読み込みこのテーマの骨子を考え、資料を作成し懇話会に臨んだ。

懇話会を何回か重ねるうち期限も迫ってきた。このままでは「報告書はまとまらない」と危機感を抱いた。そこで、最終回を一ヵ月後に控え、もう一度構成を考え直した。骨子を並べてみると課題や対応が逆転していたり、同じ意味を述べていたり（ダブリ、重複）肝心なものが抜けていたり（漏れ）した。大きい概念と小さい概念の逆転もあり、「流れと大小」に留意（ロジックツリー）し構成を考え直した。最後の懇話会では委員のご理解を得て指針をまとめることができた。

数年後、ロジカルシンキングを学び、ロジックツリーとMECE（ミッシェー）を知った。都市づくり指針策定業務で既に実践していたことであった。

ロジカルシンキングは、各種の計画やプレゼン資料・企画書作成のための必須スキルである。この後、

アセットマネジメント導入方針や景観計画、水道事業などの計画策定業務や試験論文にも役立った。技術分野とともに、様々なビジネススキルを学んでいただきたい。

MECE (ミッシェー) とは・・・  
Mutually Exclusive and Collectively Exhaustive  
(互いに重複がなく) (全体に漏れがなく)  
の頭文字をとった言葉で、ロジカルシンキングの基本。  
ロジカルシンキング

### 3. 今後どう生きるか

ここまでは「仕事から学んだこと」10カ条をお伝えしたが、長い人生では仕事が全てではない。仕事を含めた人生全体に関する三つのメッセージをお伝えしたい。

#### 1) 資格取得の奨め

一つ目は「資格取得の奨め」である。仕事を半年ごとに総括し課題や対応を整理することにより、仕事の改善を図り最終的には組織目標を達成する。こうした整理の際は、資格試験の論文構成を意識して行うと一石二鳥である。これをもとに、年齢・職位・経験に応じた資格取得を目指し勉強を継続する。例えば、30代で技術士1次試験合格、現場経験で1級土木施工管理技士を取得する。40代で技術士(建設部門等)、品確技術者1種を取得し、最終的には技術士(総合技術監理部門)取得を目指していく。

行政のジェネラリストとして成長する中で、技術者としては、スペシャリストからプロフェッショナルを目指していく。資格取得が実績の証しとなるが最終目的ではない。実は、人生100年時代を迎え「勉強癖をつけること」が重要である。

#### 2) ワーク・イン・ライフ

二つ目は「ワーク・イン・ライフ」である。

今、行政、民間を問わず働き方改革が進められている。こうした中で私が気に入っている考え方が外資系企業が掲げているビジョン「ワーク・イン・ラ

イフ」である。「人生という土台があり仕事は人生の中の自己表現の場」というもので、この考え方が「企業を成長させる鍵」と言っている。

「ワーク・ライフ・バランス」とか「仕事のオン・オフをはっきり」ではなく、仕事の中で人生への「気づき」を得たり、仕事以外の社会活動や日常生活での「気づき」を仕事に活かすことが、人生や仕事の質を高めていく。

#### 3) 三兎を追え!

三つ目が「三兎を追え!」である。埼玉県前教育長が前職の校長時代に生徒に呼びかけた標語で「勉強、部活、学校行事」の三兎を追え、という意味である。

PTA活動でこの言葉を知り「社会人も同じだ!」と気づき、職場の方針の一つとした。社会人の三兎とは「仕事、家事、社会活動」である。

この三兎を追うことで、広い視野と人的ネットワークが築かれ、様々な「気づき」を得ることができる。料理はメニューを考えることから始まり食器洗いで完結するプロジェクトである。効率的・効果的に仕事を進める訓練になるとともに、家族や自分の健康を意識するようになる。自治会活動は「まちづくり」の「実践の難しさ」を痛感する場となっている。女性役員が圧倒的に多いPTA活動では、コミュニケーション能力が格段に高まったことを実感した。

### 4. おわりに

皆さんが、仕事から色々学び、資格挑戦によって勉強癖をつけ取得により技術者としての実績を「見える化」し、「ワーク・イン・ライフ」を考え「三兎を追う」ことで、充実した幸せな人生を送ることを祈念しております。